

各学科からのアプローチ
崇城の探究心

《スマートフォン》にアプローチする3学科

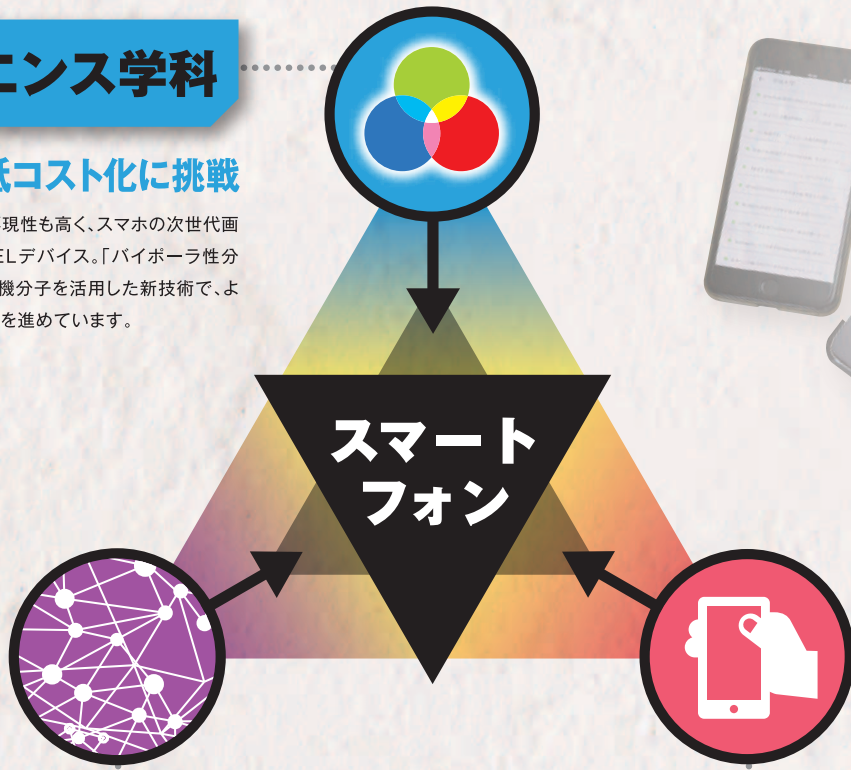
スマートフォンをもっと進化させたい

今や情報通信手段の主流はパソコンからスマートフォンに移りつつある。
IoT時代の到来で、さらにその存在感を増すことは必至だ。
より小さく、速く、安全に、使いやすく。
情報技術が加速的に進化する中で、崇城大では一歩先んじた見方で
スマートフォンの進化を支える研究が、様々な視点から行われている。

ナノサイエンス学科

有機EL画面の低コスト化に挑戦

超薄型、軽量、省エネで、色の再現性も高く、スマホの次世代画面として注目されている有機ELデバイス。「バイポーラ性分子」という様々な機能を含む有機分子を活用した新技術で、より安く、より薄く生産できる開発を進めています。



情報学科

スマホを守る暗号とアプリの研究

小型情報処理端末であるスマホに含まれる個人情報は莫大で、情報流出の危険にさらされています。そこでスマホにも使える新しい暗号化技術や、SNSの不適切な書き込みの自動判別システム設計など、情報セキュリティの研究に励んでいます。

デザイン学科

「使い手」を想うプロダクトデザインを

スマホの形は画面が優先され、持ちにくく割れやすいものがほとんど。高齢者やデジタルに興味がない人にとって不親切な形です。そこで、使う人の多様性に合わせ、「人」のことを中心に考えるスマホのプロダクトデザインを研究しています。

スマホで知った
デザインの意味を
大好きなジュエリーに生かした

デザイン学科

佐々さん 2019年卒 熊本県 第一高校出身

「スマホは機能が優先されるので「割れやすい」のが前提です。そこで保護用のカバーを付ける必要があります。そのような問題を解決し、使う人のことを一番に考えるプロダクトデザインを学びました。卒業制作では、ヘアで付けて、石を光らせることで互いの想いを伝えあうフレットを制作。飾るだけではなく、使う人の思いを乗せられるデザイン制作に今後も取り組みたいです。」

